

別表 記載例

別表1 法第28条第2項又は第3項に基づき換気設備が設けられた居室（換気設備を設けるべき調理室等を除く。）の換気状況評価表（A4）

測定年月日	令和○年○月○日	測定機器 メーカー名	○○○○		型式番号等	○○○○
階	室名	必要換気量（m ³ /h）	換 気 方 式	換気設備機種名*注1	換気状況の評価*注2	判 定
1	事務室A	400	一種・二種・三種	外気処理ユニット	500m ³ /h	指摘なし・要是正
1	集会場	2300	一種・二種・三種	全熱交換器	前回報告済：令和○年○月○日 2500m ³ /h	指摘なし・要是正
3	事務室B	120	一種・二種・三種	全熱交換器	100m ³ /h	指摘なし・要是正
		報告書第二面5欄の【イ.無窓居室】と【ハ.居室等】の室数と整合性をとる	一種・二種・三種			指摘なし・要是正
			一種・二種・三種			指摘なし・要是正
			一種・二種・三種			指摘なし・要是正
			一種・二種・三種			指摘なし・要是正
			一種・二種・三種			指摘なし・要是正
			一種・二種・三種			指摘なし・要是正
			一種・二種・三種			指摘なし・要是正
			一種・二種・三種			指摘なし・要是正

換気量の測定は3年以内に全数検査を行う。3年以内に検査した結果があり、今回検査を行わなかったものは前回検査を実施した時期を記入する

今回検査を行わなかったものは判定欄を空欄とする。

注1) 室ごとに単独の換気扇がある場合など、換気設備が特定されている場合は、その名称を記入する。
注2) 「換気状況の評価」欄には、外気取り入れ口における風量測定を行うことが最も確実であり、換気量測定を行った場合は、その測定結果を記入する。これに代わる方法として、各室の二酸化炭素濃度の測定を行い、居住者数と測定値に矛盾がないか確認する等を行った場合には、その結果を記入する。

別表2 換気設備を設けるべき調理室等の換気風量測定表（A 4）

測定年月日	令和〇年〇月〇日	測定機器	メーカー名	〇〇〇〇		型式番号等	〇〇〇〇	
室番（場所）	使用器具	発熱量(kW)	換気型式(n)	必要換気量（m³/h）	開口面積（㎡）	測定風速*注（m/s）	測定風量（m³/h）	判 定
1階 厨房	ガスレンジ	55.9	40・30・20・2	1040	0.25	1.4	1260	指摘なし・要是正
2階 給湯室	湯沸器（FE式）	16.7	40・30・20・2	466	0.07	2	504	指摘なし・要是正
3階 給湯室	湯沸器（FF式）	11.4	40・30・20・2	424	0.07	1.5	378	指摘なし・要是正
			40・30・20・2			火気使用室は毎年測定する		指摘なし・要是正
		器具ごとに記載		40・30・20・2				指摘なし・要是正
			40・30・20・2					指摘なし・要是正
	報告書第二面5欄の【口.火気使用室】の室数と整合性をとる		40・30・20・2					指摘なし・要是正
			40・30・20・2					指摘なし・要是正
			40・30・20・2					指摘なし・要是正
			40・30・20・2					指摘なし・要是正

注) 「測定風速」欄には、原則として測定した箇所の平均風速を記入する。

別表3 排煙風量測定記録表 (A4) *注1)

測定年月日	令和○年○月○日	測定機器 メーカー名	○○○○	型式番号等	○○○○
1	排煙機系統(機器番号等) SMF-0		排煙機銘板表示 ○m ³ /min×○Pa	排煙機の規定風量 最大防煙区画面積 205 m ² × 1 or (2) = 410 m ³ /min	

2	排 煙 口						判 定
	階	室 名	排煙口面積 (m ²)	測定風速 (m/s)*注2)	測定風量 (m ³ /min)	規定風量 (m ³ /min)	
	1	居室A	0.3	8.3	149.4	135	指摘なし・要是正
	2	廊下	0.36	9.5	205.2	220	指摘なし・要是正
	2	居室B	0.3	8.3	149.4	135	指摘なし・要是正
	3	居室C	0.25	今回実施せず	前回報告：令和○年○月○日 108	100	指摘なし・要是正

3	排 煙 機					判 定
	排煙機 (番号等)	煙排出口面積 (m ²)	測定風速 (m/s)*注2)	測定風量 (m ³ /min)	規定風量 (m ³ /min)	
	SMF-0	0.75	9.5	427.5	410	指摘なし・要是正

4	直結エンジン(内燃エンジン)の有無	予備電源又は直結エンジン切り替え
	有・(無)	(指摘なし・要是正)

排煙区画ごとに記入
報告書第二面9欄【口】～【ホ】の
区画等と整合性をとる

注1) 本記録表は、排煙機系統ごとに記入する。

注2) 「測定風速」欄には、原則として測定した箇所の平均風速を記入する。

注3) 自主点検等による排煙風量測定記録がある場合は、実施時期、測定方法、測定値等が適正であるか否かを判定すること。

排煙風量測定記録表は各排煙機の系統ごとに作成する

5	排煙系統図 (排煙機と排煙口の対応関係がわかる図を記入すること)
---	----------------------------------

排煙機は毎年測定する

排煙口の測定は3年以内に全数検査を行う。
3年以内に検査した結果があり、今回検査を行わなかったものは前回検査を実施した時期を記入

今回検査を行わなかったものは判定欄を空欄とする

図の記入または添付
※本用紙に記入できない場合は別紙に添付

別表 3-2 排煙風量測定記録表 (A 4) 給気式 (特殊な構造の排煙設備)

測定年月日	令和〇年〇月〇日	測定機器	メーカー名	〇〇〇〇	型式番号等	〇〇〇〇
1	給気送風機系統 (機器番号等)			給気送風機銘板表示	給気送風機の性能 (風量)	
	SMF-0			〇m³/h×〇Pa×〇kw	130 m³/min	

2	排 煙 口						判 定
	階	室 名	排煙口面積 (㎡)	測定風速 (m/s)*注1)	測定風量 (m³/min)	規定風量 (m³/min)	
	2	乗降ロビーA	0.3	1.0	18	10~120	
	3	乗降ロビーB	0.3	1.3	23.4	10~120	指摘なし・要是正

3	給 気 送 風 機				判 定
	吸込口面積 (㎡)	測定風速 (m/s)*注1)	測定風量 (m³/min)	規定風量 (m³/min)	
	1.0	1.2	72	10～130	
					指摘なし・要是正

4	直結エンジン (内燃エンジン) の有無	予備電源又は直結エンジン切り替え
	有 ・ 無	指摘なし・要是正

注1) 「測定風速」欄には、原則として測定した箇所の平均風速を記入する。
注2) 自主点検等による排煙風量測定記録がある場合は、実施時期、測定方法、測定値等が適正であるか否かを判定すること。

排煙風量測定記録表は給気送風機ごとに作成する

5 排煙系統図 (給気送風機と排煙口と)

給気送風機は毎年測定する

排煙口の測定は3年以内に全数検査を行う。3年以内に検査した結果があり、今回検査を行わなかったものは前回検査を実施した時期を記入する

図の記入または添付 ※本用紙に記入できない場合は別紙に添付

今回検査を行わなかったものは判定欄を空欄とする

別表 3-3 排煙風量測定記録表 (A 4) 加圧式 (加圧防排煙設備)

測定年月日	令和〇年〇月〇日	測定機器	メーカー名	〇〇〇〇	型式番号等	〇〇〇〇
1	給気送風機系統 (機器番号等)		給気送風機銘板表示		給気送風機の性能 (風量)	
	SMF-0		〇 m³/h × 〇 Pa × 〇 Kw		360 m³/min	

		遮煙開口部・空気逃し口					S 判 定
階	室 名	空気逃し口的方式*注1)	測定排煙風速*注2 (m/s)	規定排出風速*注3 (m/s)	算定式*注3)	遮煙開口部の高さ(m)	
2	4 乗降ロビーD	1. 自然方式 ☐ 2. 機械方式 ☐ 3. 併用方式 ☒	5.9	4.67	②	2	指摘なし 要是正
	3 乗降ロビーC	1. 自然方式 ☒ 2. 機械方式 ☐ 3. 併用方式 ☐	5.6	4.67	②	2	指摘なし 要是正
	2 乗降ロビーB	1. 自然方式 ☐ 2. 機械方式 ☐ 3. 併用方式 ☒	5.7	4.67	②	2	指摘なし 要是正
	1 乗降ロビーA	1. 自然方式 ☐ 2. 機械方式 ☐ 3. 併用方式 ☒	5.8	4.67	②	2	指摘なし 要是正

3	直結エンジン (内燃エンジン)の有無	予備電源又は直結エンジン 切り替え
	有 ・ 無	指摘なし・要是正

4	排煙系統図 (給気送風機と空気逃し口の対応関係がわかる図を記入すること)
---	--------------------------------------

遮煙開口部・空気逃し口の測定は
3年以内に全数検査を行う。
3年以内に検査した結果があり、
今回検査を行わなかったものは前
回検査を実施した時期を記入する

今回検査を行わな
かったものは判定
欄を空欄とする

図の記入または添付
※本用紙に記入できない場合は別紙に添付

注1) 「空気逃し口の方式」欄には、該当するチェックボックスに「レ」マークを入れる。

注2) 「測定排出風速」欄には、原則として測定した箇所の平均風速を記入する。

注3) 隣接室を区画する当該区画の仕様及び隣接室の仕様に応じて、規定排出風速Vの算定式を以下の①から③のいずれかを選択し、「算定式」欄に記入する。また、当該算定式により排出風速を算出し、「規定排出風速」欄に記入する。この場合において、Vは排出風速、Hは遮煙開口部の高さを表す。

① $V=2.7\sqrt{H}$ ② $V=3.3\sqrt{H}$ ③ $V=3.8\sqrt{H}$

注4) 自主点検等による風速測定記録がある場合は、実施時期、測定方法、測定値等が適正であるか否かを判定すること。

別表4 非常用の照明装置の照度測定表 (A4)

測定年月日	令和〇年〇月〇日		測定機器 メーカー名	〇〇〇〇	型式番号等	〇〇〇〇
光源の種類	最低照度の測定場所			最低照度 (lx)		判定
	階	部屋・廊下等				
白熱灯	1	飲食店		3		指摘なし・要是正
蛍光灯	3	C階段		0		指摘なし・要是正
LEDランプ (自動検査機能なし)	2	ロビー		4		指摘なし・要是正
LEDランプ (自動検査機能あり)						指摘なし・要是正
その他 ()				避難上必要となる部分のうち最も暗い部分		指摘なし・要是正

避難上必要となる部分のうち最も暗い部分

(別紙)

階 別	測定場所	測定位置 ^{*注1}	光源の種類 ^{*注2}	照度 (lx) ^{*注3}	判定
1	飲食店	避難口	白熱灯 (内)	3	指摘なし・要是正
1	居室A	出入口付近	白熱灯 (内)	4	指摘なし・要是正
1	階段A	踊り場	蛍光灯 (内)	5	指摘なし・要是正
2	ロビー	中央付近	LED (内)	4	指摘なし・要是正
2	居室B	出入口付近	白熱灯 (内)	5	指摘なし・要是正
2	階段B	踊り場	蛍光灯 (内)	2	指摘なし・要是正
3	居室C	出入口付近	白熱灯 (内)	4	指摘なし・要是正
3	廊下	中央付近	LED (自動検査機能あり) (内)	—	指摘なし・要是正
3	階段C	踊り場	蛍光灯 (内)	0	指摘なし・要是正
			光源から遠く、主として避難を行う際に重要な位置 (廊下、階段、非常用エレベーターのロビー及び居室の出入り口等) を中心に選定する		指摘なし・要是正
					指摘なし・要是正
					指摘なし・要是正

注 1) 「測定位置」欄には、「出入口付近」、「右壁中央付近」のように明記する。
注 2) 「光源の種類」欄には、白熱灯、蛍光灯、LEDランプ (自動検査機能なし)、LEDランプ (自動検査機能あり)、その他の別及び電池内蔵のものにあつては、(内) と付す。
注 3) 「照度」欄には、自動検査機能を有していない場合は、照度の値 (lx) を記入し、自動検査機能を有するものにあつては、「—」を記入する。

※照度測定は毎年行う
照度器具は「十分に補正された低照度測定用照度計」と定められており、シリコン又はセレン光電池式照度計を使用する